



MRI 設置記念式典



第二十三回 平成二十四年七月一日
 飛行 東京都立東部療育センター
 広報委員会
 東京都江東区新砂三-三-二十五

MRI 設置記念式典
 (当センターMRI室前にて)

「花の冠」
 療育部長 藤野 孝子

詩集「花の冠」の作者 大越 桂さんは言葉を得て、海の底の石から人になったと表現しています。脳性まひで不自由な体で言葉も「う」とか「あ」とかのみでした。ズーツと三歳程度の知能だと思われていた桂さんは、十三歳で気管切開をすることになってわずかに意志表示をしていた声も失うことになったのです。必死で糧をたたく伝えようとすると姿と脈拍の動きに母親の紀子さんが気づきます。

「何かを言おうとしているに違い無い」と文字盤を工夫しますが、強度の弱視の桂さんには、目の前のものしか見えません。母親は特別支援学校の先生に相談し筆談をやってみようということになりました。わずかに動く左手にペンを固定して練習が始まります。桂のかを書くことも十分もかかり、疲れて吐いてしまう状態でしたが、一年がかりであいうえおを練習したそうです。そしてこれで「石」でなくなる。これで「通じる人」になれる。これで「人間」になれる。そう思ったということ。そして三月十一日の震災を受けて、ブログに「SOS」をしたところ数時間で支援物資が届きました。



そのつながりや思いやりに感謝して来たのが「花の冠」です。本当に感動的な詩集です。私は「小さなこと」が特に好きです。健常者にとっては何気ない日常的な事柄が、障害者には大きな喜びであり、小さなことを喜べる自分でいたいと綴られています。なんと豊かな感性と広い世界を持っているのでしょうか。

きつと動かせない身体でも、何かを表現しようとしている利用者は大勢いるのでしよう。小さな動きや視線にもっと敏感になって一人ひとりの言葉を探す努力をしなければと思い、パイプルのように携えて読んでいます。

遅くなりましたが、この度、療育部長を拝命いたしました。気持ち新たに、利用者様とともに歩む療育を目指したいと決意いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

行事紹介

平成二十四年四月から六月にかけて当センターで行われた行事
 (入園式・かもめ分教室入學式、バスハイク、プール活動) について紹介します。

入園式

平成二十四年度
 幼児通所「ほれほれ」入園式

四月六日(金)、新規通所児四名の入園式が行われました。当日は、四名とも体調を崩す事なく元気に参加することが出来ました。式の序盤では、初めての場所、初めて会うお友達やスタッフを前にして緊張している様子が見られました。しかし、新規通所児・在園児の自己紹介をした辺りから少しずつ表情も柔らかくなり、在園児からの温かい心のもった歌のプレゼントを貰った頃には、すっかり緊張もほぐれていました。その後、年中行事の紹介も兼ねたスタッフからの出し物では、笑顔も多く見られていました。

今年度の「ほれほれ」は、新規通所児四名を加えた総勢十四名となります。活動や行事等たくさん楽しい経験

入学式

平成二十四年度
 かもめ分教室「入学を祝う会」



幼児通所「ほれほれ」
 入園式の様子

を通して、一人ひとりの成長発達を支援して行きたいと思えます。

桜の花びらが満開となり、温かい日差しにまつまれた四月十一日(水)、平成二十四年度かもめ分教室「入学を祝う会」が行われました。この春、新たにかもめ分教室の一員になったばかりの一年生Sくんの他に、中学部は四名、高等部も四名、計九名の児童・生徒が新しい学校、新しい学部での生活をスタートさせました。

祝う会にはご家族は勿論、副院長先生をはじめ、病棟スタッフの皆さん、かもめの友達がたくさん集まり、祝福

バスハイク (通所)



かもめ分教室
 「入学を祝う会」にて

今年度のバスハイクは少人数のグループで実施する事になりました。行き先には葛西臨海水族園、イクスピアリでの買い物、リゾートライオン乗車を設定しました。五月には水族園、

六月にはイクスピアリに行ってきた。

水族園では、大きな水槽の前で綺麗な魚をゆつくりと見る事が出来ました。体験コーナーではヒトデやナマコを触らせていただき、普段触った事のない感触に不思議そうな顔をしていたのが印象的でした。

初めて行くイクスピアリでは、外国の街並みを思わせる店内に散策をしながら大きな目をして周りを見ている利用者様の姿が多くありました。買い物では店員さんに接客を受けながら緊張気味の表情もありましたが、お気に入りのものが見つかる表情がバツと明るくなり充実した表情が見られました。

この先、七月と十月にもバスハイクを予定しています。これから行かれる方にも楽しい思い出になるようにして行きたいと思えます。



通所バスハイク
 <撮影>イクスピアリにて

プール活動

三階西病棟

本来なら昨年の三月に、平成二十三年度の人工呼吸器装着者プール活動の締めとして入る予定でした。しかし、震災の影響で予定が延期となり、予定日から一年以上を経ての実施に、利用者様はもちろん、家族、職員も待ちに待ったこの日でした。

何十年ぶり？のプールに、周りは不安いっぱいだったのですが、そんな心配をよそに、利用者様は、身体の緊張も緩み、穏やかな表情を見せてくれました。

当初は、十分から十五分の予定でしたが、利用者様の楽しんでる様子に、もう少しだけ、という思いから、時間を延長してしまいました。

医療的ケアが必要であっても、多職種との連携により、今回のプール活動を実施することができました。今後、利用者様の多くの可能性に取り組みしていきたいと思えます。



人工呼吸器装着者
プール活動の様子

ボランティア活動紹介

伊藤知砂子さん

私は毎週月曜日に二階プレイルームで洋裁のボランティアをしています。以前よりボランティアに携わりたいと思ひ、色々な所に体験学習に行きました。

洋裁をしておりましたので、自分の持っているもので何かお役に立てる事がないか探してありました。東部療育センターに何うようになつて、今年で二年になります。様々な物作りに挑戦させて頂いてあります。

利用者の皆さんと直接コミュニケーションを持つ事はありませんが、通園用の袋物を作ったり、リハビリをしている皆さんが使われる用具の修理をしたりしてお役に立てているかと思ひます。



洋裁中の伊藤さん

成人グループ外出

五月九日(水)に、今年度より始まった成人グループ外出に第一陣として、二階西病棟は、最近オープンした話題になった東京ゲートブリッジに行ってきました。

天候は曇り時々雨。療育部長をはじめ、たくさん職員に見送られながら出発。バスの中では、雨模様の外を眺めながら、みんな心配になりましたが、着く頃には雨も止み、散策には絶好の天気になりました。

駐車場でバスから降り、ゲートブリッジのエレベーターへ直行すると、潮の香りに包まれ、東京湾をバックに記念撮影。高さが地上六十メートル程あるブリッジの歩道に到着すると、目の前には一面の海が広がり、気持ちの良い眺めに一同笑顔になっていました。大型トラックが通行する度に感じる大きな揺れにビックリしました。

周囲の若洲海浜公園を散策し、そこでジュースを飲み一息ついてから、センターに戻ってきました。帰りの車中では、皆さん満足気な様子でいつか夜のイルミネーションを見に行く事を胸に抱き病棟へ戻ってきました。

今夏の節電対策

昨年七月の電力消費は、皆様の協力で前年度対比二十七%の削減でした。

二十三年度は前年度対比二十・二%の削減、約三百四十六万円の経費削減になりました。具体的な対応は、

- 一 照明の大幅削減
- 二 遮光対策
 - 窓に遮光フィルム、遮光塗料を貼る
- 三 エレベータの使用制限
- 四 空調調整
 - 室内温度二十六度、使用終了エリアの空調停止
- 五 非常時の電源確保
 - 小型発電機の設置

今年も「社会福祉施設にはできる限りの節電を」との国・東京都からの協力要請がきています。普段からの一人ひとりの気配りで大きく差が出ます。色々な提案を持ち寄り節電にご協力ください。

東部あねこれ

今年の四月から六月にかけて当センターで行われた行事等について紹介します。



成人グループ外出
(東京ゲートブリッジ)

保護者等懇談会

サービス向上委員会の第三者委員の出席をいただき、六月二日に入所十七人、六月十一日に通所十五人の出席による保護者懇談会を行いました。MRIの導入、二十四年度の職員配置状況平成二十三年度福祉サービスマニュアルの結果などをセンターから報告した後、保護者、第三者委員、センター職員による意見交換会に入りました。保護者側からは、震災時の避難誘導、バスハイクの回数増、通所日数の確保等について意見や要望があり、今後検討していくこととしました。

懇談会終了後にはMRI室を見学し、最後に栄養科が新メニューを紹介し保護者の方たちに試食をしていただき、散会となりました。次回もより多くの参加をお願いいたします。

「四月」

一日が日曜のため、二日に新規採用の辞令交付式、オリエンテーションがあり新しい年度が始まりました。四月は新たな一年に向けていろいろな事が動き出します。気を引き締めて業務に取り組みたいものです。

「五月」

二十九日に東京都保健福祉局長や他の療育施設等の関係者をお招きし、MRI設置の記念式典を執り行いました。六月から本格稼働となり利用者様の診断に大きな力を発揮することになります。

「六月」

二日に入所、十一日に通所の家族懇談会があり、家族の方々に栄養科から試食を提供し、利用者の皆様が普段どのような食事を召し上がっているかを見ていただきました。ご家族の方の評判はおおむね良好でした。

人命救助

消防庁総監表彰

五月十三日、近隣の大型スーパーで買い物中に、前方を歩いていた高齢の

重症心身障害看護認定看護師として

東京都が実施している「重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修」をこの三月に終了し、この度、田代恵野、星美千子、築場早苗、川上絵里子の四名が「重症心身障害看護認定看護師」の認定審査に合格することが出来ました。重症心身障害看護認定看護師制度とは、日本重症児福祉協会が今年度より制定した新しい制度です。重症児看護は、看護の基本から始まり、人としての尊厳や、生きていることへの素晴らしさを学ぶ事ができます。そしてこの制度が開始されたことで重症児看護はより一層発展をしていくのではないかと考えています。



認定看護師の皆さん

(前列左から保坂療育部長、有馬院長、中村事務長、後列左から清水看護長、星さん、川上さん、田代さん、築場さん、藤野看護科長、山田担当科長)

女性の方が突然倒れた場面に出会いました。最初に駆け寄った店員がお客様に対する配慮からか、救護を断られました。心臓停止状態だったことから看護師であると申し出、他の方と役割分担をして、AEDや人工呼吸、心臓マッサージなどを行い救急隊に引き継ぐことが出来ました。女性の方はその後救急病院に搬送され、回復しているという事でほっとしています。今までの指導してくださった皆様と一緒に頂いた「感謝状」だと思っています。



感謝状を前に
(左から、有馬院長、宮本さん、保坂療育部長、中村事務長)

編集後記

庭のアジサイが梅雨を迎えて色鮮やかに咲き誇っています。アジサイにつき物のカタツムリもここからカ現れ、そのゆっくりとした動きを見ていると心も穏やかな気分になります。仕事も無理せず、あわてず、確実にこなすよう心がけたいものです。